

## 令和7年度台東区青少年委員協議会合同地区懇談会講師紹介

ダニエル・カール氏 (タレント、山形弁研究家)

【プロフィール】

1960年3月生まれ。米国カリフォルニア州モンロビア市出身。

学歴：パシフィック大学 (カリフォルニア州)

専攻：国際政治経済

語学：英語、ドイツ語、山形弁

専門分野：地理、世界史、言語、日米文化比較論、子供の教育



高校時代、交換留学生として奈良県智弁学園に1年間在日。大学生時代、大阪の関西外国語大学に4ヶ月学び、その後京都の二尊院に2ヶ月ホームステイ。佐渡島で4ヶ月文弥人形づかいの弟子入りをした。

大学卒業後、日本に戻り文部省英語指導主事助手として山形県に赴任し、3年間英語教育に従事した。

その後上京し、セールスマンを経て、翻訳・通訳会社を設立。約30年前からテレビ・ラジオ等の仕事を兼務し現在に至る。

好奇心旺盛な性格とバイタリティーある行動力そしてユーモア豊かなサービス精神、それに加え3年間の山形での生活で鍛えた山形弁を武器に、ドラマ、司会、コメンテーター、講演活動など何でもこなすマルチタレント。

## 活動報告

### わんぱくトライアスロン (協力事業)

【日時】 令和7年8月24日 (日)

【場所】 台東リバーサイドスポーツセンター

夏休み最後の日曜日に、参加した小学4～6年生のパワー全開の奮闘を支えました。

## 今後の予定

期日	活動内容	場所
令和7年11月24日 (月・振休)	小学生対象事業 「親子ふしぎ発見塾～作って遊ぼう～」	台東区役所 10階
令和7年11月30日 (日)	ミニ講座	未定
令和8年1月12日 (月・祝)	二十歳の集い (協力事業)	浅草公会堂
令和8年1月24日 (土)	中学生対象事業 「中学生サミット」	台東区役所 10階
令和8年2月14日 (土) ～15日 (日)	管外研修	福島方面

台東区青少年委員協議会事務局 (子育て・若者支援課内)  
〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6 台東区役所6F  
TEL 03-5246-1341 FAX 03-5246-1289

台東区ホームページ内  
青少年委員紹介ページ



## 第73号

発行者 台東区青少年委員協議会  
台東区  
編集者 台東区青少年委員協議会  
広報委員会  
発行日 令和7年10月17日



## 合同地区懇談会の開催

台東区青少年委員協議会 会長 生駒 秀二



日頃より台東区青少年委員協議会にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。私たちは6つのブロックから構成され子どもたちを支える活動をしており、保護者や教育関係者、地域の皆様などに向けた事業として、地区懇談会を開催しており、今年は6ブロック合同による、合同地区懇談会を開催しました。

近年、台東区は国際的な観光地となり、毎日多くの外国人観光客が訪れています。更に、台東区に居住する外国の方々も年々増え、今年7月1日時点において、約22万人の住民登録者数のうち約1割が外国人です。街中ではこうしたご家族が暮らし、区内の小中学校などに通うお子さんの姿も日常の風景となっています。

国や文化が異なれば、言葉や考え方も異なります。こうした多様性の中で言葉の使い方はもちろん、私たちはどのようにコミュニケーションを図ればよいのか、今回は、ダニエル・カール先生を講師にお迎えし、青少年にはもとより大人にもヒントとなるような貴重なお話を伺うことができました。

なお、今回は東京都と連携して実施している青少年応援プロジェクトを活用しました。改めまして合同地区懇談会の開催にあたり、ダニエル・カール先生をはじめ、東京都のご担当者様、ご協力ご出席いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

台東区青少年委員協議会では、最新の活動状況を Facebook で公開しています。

Facebook は、検索サイトで「台東区 青少年委員協議会」と検索するか、右のコードを読み込んでください。



**令和7年度  
台東区青少年委員協議会合同地区懇談会**

～青少年に豊かな心とよりよい環境を～  
(青少年応援プロジェクト@台東区)

- \* 講師 ダニエル・カール 氏  
(タレント、山形弁研究家)
- \* 日時 令和7年7月12日(土)  
午後2:00～
- \* 会場 台東一丁目区民館 多目的ホール
- \* 司会 副会長 直井 宏之
- \* 開会の辞 副会長 西 郁朗
- \* 挨拶 会長 生駒 秀二
- \* 青少年委員協議会ブロック紹介
- \* 閉会の辞 副会長 小河原 左知子
- \* 合同地区懇談会 出席者  
各園小中学校長・副校長、各PTA会長・役員、  
青少年育成地区委員会役員、民生・児童委員、  
前青少年委員、区民事務所等所長  
(順不同・敬称略)
- \* 講演内容  
多様な他者への理解  
「多様性に即したコミュニケーション術」  
当日の内容を抜粋、要約して掲載いたします。



マイクを手に一人一人の目を見られていました

**ユーモアで学ぶ異文化接触**

—ダニエルさんの多様性コミュニケーション

カリフォルニア生まれのダニエル氏が、外国人が珍しかった70年代日本での体験を披露されました。山形育ちと言えるほどまでになった半生を笑いを交えつつお話しされ、日常の出来事から多様性理解と異文化コミュニケーションの重要性を語る講演の幕開けとなりました。

**山形から広がる英語教育と  
異文化理解の物語**

山形県初の外国人の英語指導主事助手としての活躍から得られた経験のお話がありました。



暑い日でしたが、たくさんの参加者が集まりました

**“行ってきます”に隠れた文化の違い**

—言葉が示す日本とアメリカ

**一言に込められた日本文化**

—“ワンワード”が生む魔法と難しさ

**やんわりと、でも伝わらない？**

—日本語の婉曲表現に潜む文化たち

**謙遜の美德と誤解**

—日本文化の奥ゆかしさと課題

ダニエル氏が日本での暮らしで生じた戸惑いや疑問は、日本で生まれ育っている私たちには不思議に思えましたが、お話しが進むうちになるほど！に変わっていき、異文化理解に必要な考え方を自然と理解することができました。



サプライズの花束贈呈



客席からの拍手に笑顔で応える講師

**質疑応答**

台東区に増える外国人観光客や住民との交流について、特に子どもたちとのコミュニケーションに関する質問があり、ダニエル氏は、「挨拶をすること」の重要性を強調されていました。知らない人にも積極的に「こんにちは」と声をかけることで、お互いの距離が縮まり、文化の違いを超えた交流が生まれるとのアドバイスをいただきました。



**青少年委員の感想**

青少年応援プロジェクト@台東区の一環で、ダニエル・カール氏にお越し頂きご自身の貴重な経験を交えた「多様性に即したコミュニケーション術」をお話しいただきました。

約48年前に来日された当時は外国人は非常に珍しがられ、現在では思いもよらないようなハプニングに遭われるなど、今の時代とのギャップを感じました。

コミュニケーション術として、近年では日本に多くの外国人が仕事や旅行、移住してきているが、今の時代はインターネットも普及しており多くの外国人は日本語が話せるので、街で外国人から質問を「日本語」でされたなら「日本語」で返せば良い。との事でした。

但し、日本語の曖昧さ(奥ゆかしさ、優しさ)が質問してきた外国人に分かりにくくすることもあるのでハッキリと伝えることが重要になるそうです。例えば「ちょっと難しい」と言われると、やってくれそうに思われる。であるならば「ごめん。できない」のほうが相手にとっての優しさであるようです。

今回の講義をお聴きし、外国人とのコミュニケーション術は、日本らしさも重要ですが、間接的な表現を極力避け、ハッキリと伝えられるような訓練が必要だと感じました。

さて、まずは観光名所で道案内をしてこようかな、

(広報委員 沼 邦彦)



会長挨拶